

僕は
星奈しか
要らない

2

I need only senna



この作品はブレイクショーンであり実在の人物・団体等とは一切関係がありませんがあなたは小鷹の中の人です。ぜひ星奈を幸せにしてあげてください。

■学校■

小鷹に初めてをささげてからは、知ってる事ばかりのつまらない授業でもその後に待っている一人だけの時間と思うだけで楽しく思えてくるから不思議。そろそろ下校時間だよね。待ち合わせ場所に駆けつけたくて心が弾むけど、その前にしつかり鏡を見てチェックする。「よし」

昼めし時に星奈からメールが来る。

「すげえ、俺いまリア充じゃねえ?」

帰りにウチに来たいとか時間があつたらとか、いちいち可愛い文面に愛しさがこみ上げてくる。

「ぐつ」「いかん、なんか変な声が漏れた。

ガタガタッ

完全に引いてるクラスメイト達が俺と目が合い素早く目をそらしていく。

いや違うんだ嬉しくて声が漏れただけなんだ。

説明できないまま午後の授業中も緊張した雰囲気のまま過ぎていく。

いたたまれない……

授業も終わり、星奈との待ち合わせ場所に直行しようと腰を浮かす。

「ひつ」椅子の音に驚いたのか、隣の生徒が素早く道を開ける。

「いや、あのな」

「ご、ごめんなさい」

なぜかドアまでのクラスメイト達までが慌てて退散していく。

……えと。あー。泣きたくなるのをこらえて教室を出る。

いつもどおり先に待つている星奈と繋いで下校する。

俺の家に一人して帰るだけなんだが。——だが、それだけで胸が高鳴る。

さすがに学校付近では並んで帰るだけなのだが、他の生徒が少なくなるってきて手をつなぎたい……と思った時に何故か必ず星奈から手をつないでくる。照れくさいが、心がつながっている気がして嬉しい。

いつもどおり先に待つている星奈と繋いで下校する。

俺の家に一人して帰るだけなんだが。——だが、それだけで胸が高鳴る。

手をつなぎたい……と思つた時に何故か必ず星奈から手をつないでくる。

照れくさいが、心がつながっている気がして嬉しい。

星奈の細くて柔らかい手を握ると、守つてやうなきやなと思えてくる。

最近はセツ〇スしてる時に星奈が凄く感じてるような声も出してくれてすげえ嬉しじゃけど、あの潤んだ目を見るといじめたくなる。

子供が好きな女子にちよつかい出すような感じなんだろうか……。

部活の時の夜空とのやりとりを見ると星奈ってドMなんじやないかと思ふ時もあるが……ほんとのところどうなんだろ……。

今日は——ちょっとだけ、俺も……

■小鷹の部屋■

「星奈……」

俺は部屋に入るなり星奈を後ろから抱き締めた。

「え……あ、いいきなり?」

「いきなりつ……どれだけ我慢してたと思ってんだよ」

「そ、そ、そ、そ、う、な、の?」

「星奈は平気なのか?」

星奈の髪に顔をうずめる

「ばつ、ばか?……平気なわけ。ないでしょ。」

震える星奈の身体に力が入る。

星奈の胸の下で交差している俺の手に、たどたどしく星奈の細い指が重なる。

お昼の時間にメールでやり取りして今日は緒に帰れるかドキドキしながら

返事を待つ。最近小鷹の家に遊びに行けてないなあ。

ちよとこう……そろそろ寂しいかな。

「やつた!」

『OK』の返事についてホホが緩む。

ぎゅっと握り込んでくる力強さに星奈も俺と同じ気持ちだった事を知り

途端うれしくなる俺

「嬉しいよ星奈。」

思わず抱きしめようとするが星奈がこちらを向く途中だった為、

変な角度で抱きしめる事になった。

「ばつ、バカッ。」

よろけながら星奈が抗議の目線を向けてくる

「すまん」

何に怒っているのか分からずとりあえず謝つてみたが

「すぐに謝罪できるのは良い心掛けね！女神であるあたしを抱きしめる

権利を与えてもらつて嬉しいのは分かるけど。もうと雰囲気を読みなさいよね！」

いつもどうり残念な台詞に萎える。

すげえ、あれだけ盛り上がつてた俺の気持ちが瞬にして……

これだけこれだけなければ！

星奈は俺にかまわざ腕の中で身体をこちらに向けて、しがみついてくる。

むぎゅう。

星奈のあふれんばかりに主張しているおっぱいが俺の腹に押しつぶれながらも

接触面積を増やす、増やす！どこまでおっぱいが広がるのか！

「おっぱい！おっぱい！おっぱい！おっぱい！おっぱい！おっぱい！」

なぜかジト目の星奈と目が合う。

あれ？なんでもそんな目で見るんだろ？……

「はあ……あんたはそれさえなれりや……ねえ……」

盛大にため息をつく星奈

「なんでこんなエロバカの事……好きなんだろ……」
「じいつとこちらを見つめてくる星奈
「上百遣いの星奈は異常に可愛いな！」

思わず思い切り抱きしめてキスする。

「ちよーくんむう！」

ジタバタと暴れる星奈だがそれすら可愛く思えてならない
奥深く、星奈の舌や歯に自分の舌を這わせてむさぼるように星奈を味わう。
しだいに星奈も俺に精一杯しがみつきながら舌で口の中を愛撫してくる。
たがいに舌を絡めあいながら「から唾液をあふれさせている内に
星奈の身体を味わいたくてたまらなくなり、ベッドに押し倒す。

「ん……」

これから自分の身体が俺の自由にされる事に、喜んでいるとしか思えないほど期待した潤んだ目で俺を見る。

見ただけでイキかけるほど芳醇な表情に、たまらず自分の服を脱ぎ捨てる。

「あつ」

「こ、小鷹つーあ、こ、これ、つ、付けなきや」

星奈がスカートのポツケからコンドームを取り出し、恥ずかしそうに自分の顔前にかかる。

「そ、そうだな」

受け取ろうと手を伸ばす俺に
「ああたしが付けてあげるね」

そう言うと袋を破り、俺のちん〇んに被せようと近づいてくる。

「そ、その先っぽの空気抜かないで破れるらしいぞ」

動搖して得意げにネットで調べた知識をひけらかす俺

「わ、分かつて終わった星奈は

何とか付け終わつた星奈は

そのままゴム付きのちん〇んを凝視しながら

「こ、これで安心してできるね」

「そ、そだな……安心だな」

ふと俺の視線を感じたのか顔を真っ赤にしながら、こちらを見上げる。
たまらず星奈を押し倒し、襲いかかる。

「わ、分かつて終わった星奈は

何とか付け終わつた星奈は

そのままゴム付きのちん〇んを凝視しながら

「こ、これで安心してできるね」

「そ、そだな……安心だな」

ふと俺の視線を感じたのか顔を真っ赤にしながら、こちらを見上げる。

たまらず星奈を押し倒し、襲いかかる。

「わ、分かつて終わった星奈は

何とか付け終わつた星奈は

そのままゴム付きのちん〇んを凝視しながら

「こ、これで安心してできるね」

「そ、そだな……安心だな」

ふと俺の視線を感じたのか顔を真っ赤にしながら、こちらを見上げる。

たまらず星奈を押し倒し、襲いかかる。

「わ、分かつて終わった星奈は

何とか付け終わつた星奈は

そのままゴム付きのちん〇んを凝視しながら

「こ、これで安心してできるね」

「そ、そだな……安心だな」

ふと俺の視線を感じたのか顔を真っ赤にしながら、こちらを見上げる。

たまらず星奈を押し倒し、襲いかかる。

「わ、分かつて終わった星奈は

何とか付け終わつた星奈は

そのままゴム付きのちん〇んを凝視しながら

「こ、これで安心してできるね」

「そ、そだな……安心だな」

ふと俺の視線を感じたのか顔を真っ赤にしながら、こちらを見上げる。

たまらず星奈を押し倒し、襲いかかる。

「わ、分かつて終わった星奈は

何とか付け終わつた星奈は

そのままゴム付きのちん〇んを凝視しながら

「こ、これで安心してできるね」

「そ、そだな……安心だな」

ふと俺の視線を感じたのか顔を真っ赤にしながら、こちらを見上げる。

たまらず星奈を押し倒し、襲いかかる。

「わ、分かつて終わった星奈は

何とか付け終わつた星奈は

そのままゴム付きのちん〇んを凝視しながら

「こ、これで安心してできるね」

「そ、そだな……安心だな」

ふと俺の視線を感じたのか顔を真っ赤にしながら、こちらを見上げる。

たまらず星奈を押し倒し、襲いかかる。

「わ、分かつて終わった星奈は

何とか付け終わつた星奈は

そのままゴム付きのちん〇んを凝視しながら

「こ、これで安心してできるね」

「そ、そだな……安心だな」

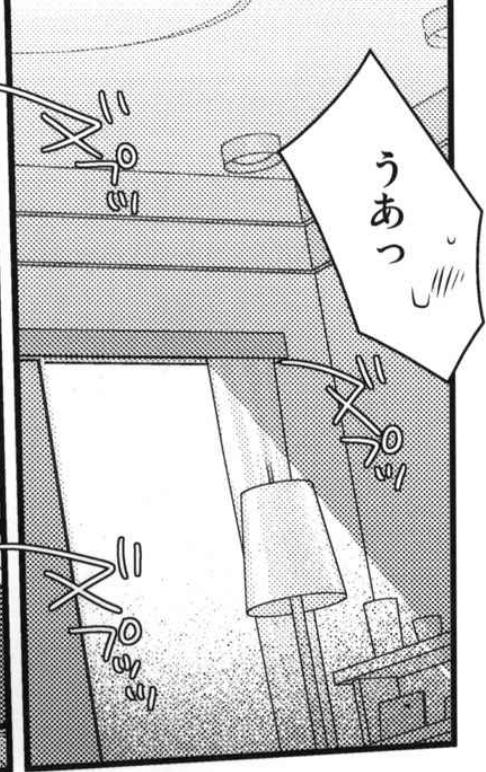
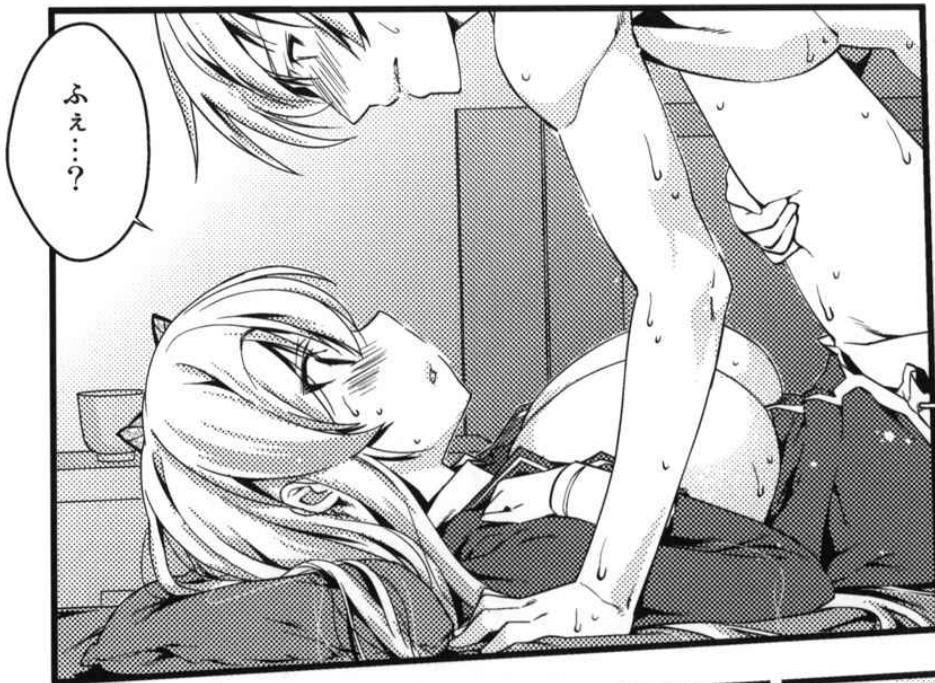
ふと俺の視線を感じたのか顔を真っ赤にしながら、こちらを見上げる。

たまらず星奈を押し倒し、襲いかかる。

「わ、分かつて終わった星奈は

何とか付け終わつた星奈は

そのままゴム付きのちん〇んを凝視しながら











目は
そらさないんだ?



星奈!! イクッ!!

出されてる…ツ♥

あたしの…ツナカで♥
んうつ精液が

びゅくびゅく出てるつ♥





出し…て
あたしに…

もっと…いっぱい

んつ
んうつ

ホホ

ホホ

ホホ

ホホ

ホホ

ホホ

ホホ

ホホ



ああっ!!

またいくつ
いくのお!

あ...ああ...

ひあつあつ♥
お○んこお

ひあつあつ♥
1つくううつ♥

しおじいい...

ヒツ

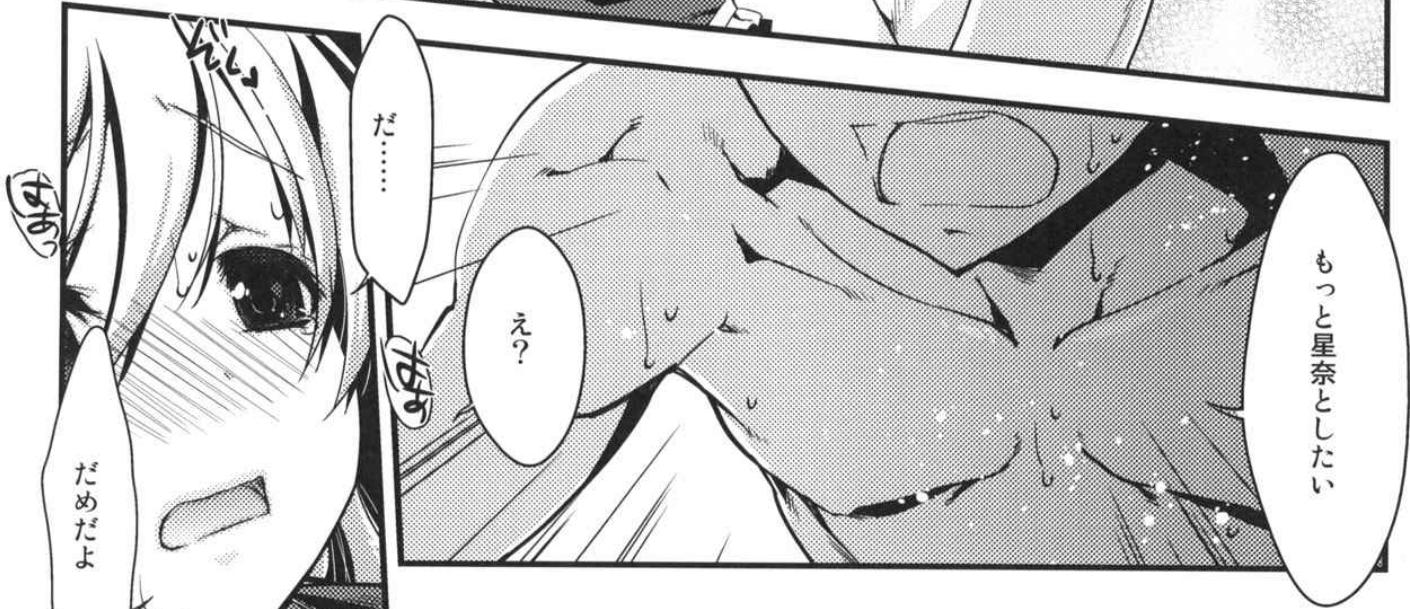
アキラ











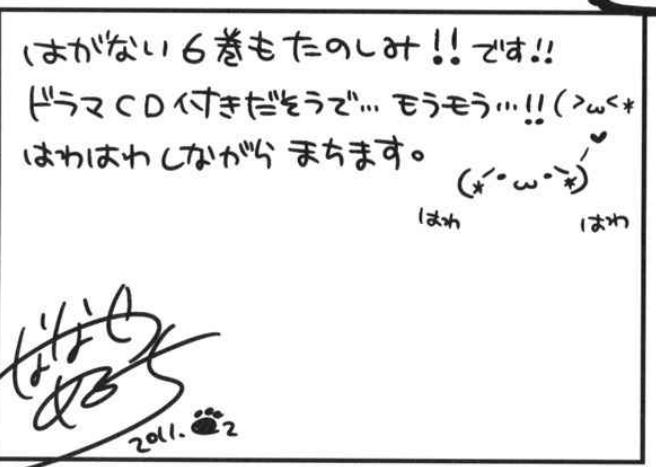
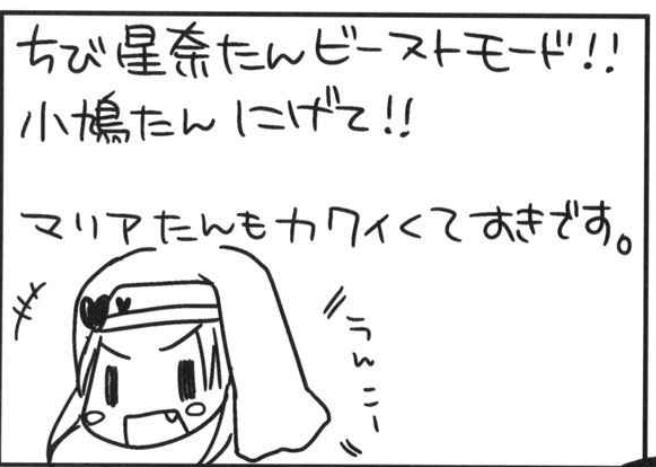
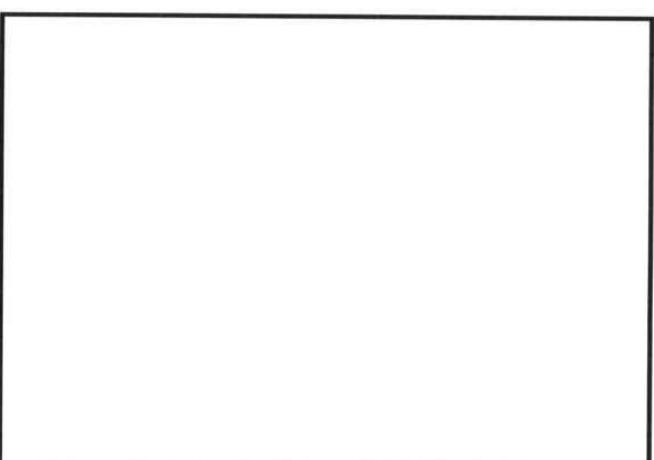
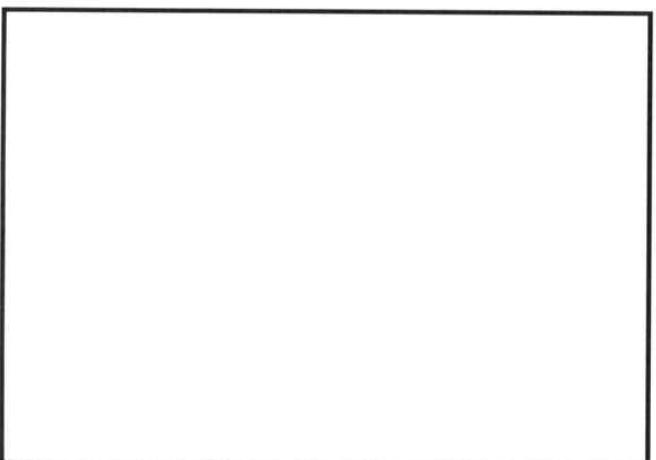
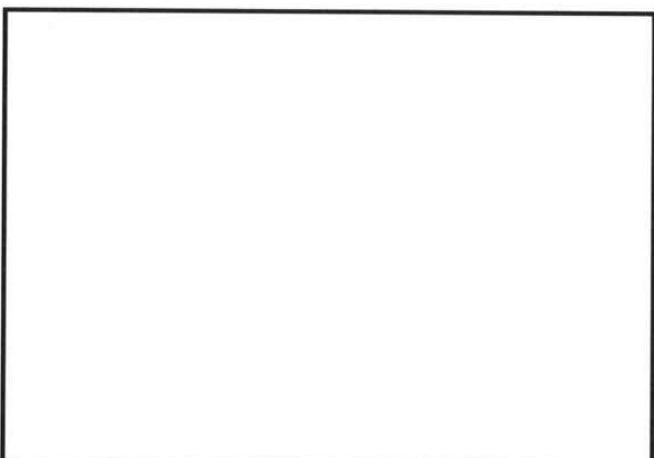
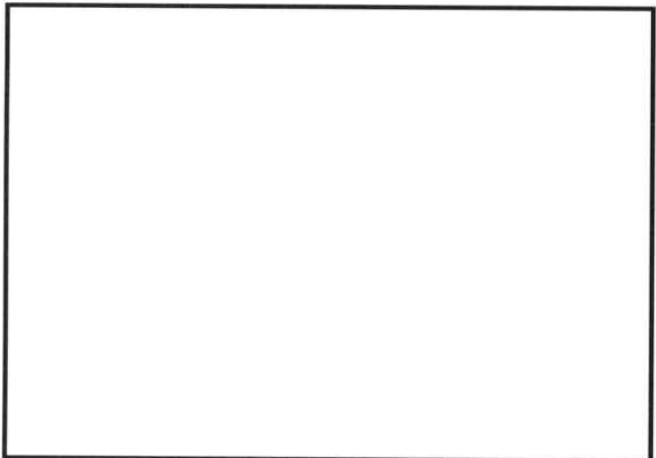












こんにちは、ななせ めるちです!
星奈本第2弾ですー(*`▽`*)わー!

小鳩と星奈が付き合っちゃったら…の
妄想でお送りしました(ω・')が…
いかがでしたでしょうか。
もうちょっと入れたいエピソードがあったのに
入りきれませんでした…。(ノД“)。
でも星奈ラブだけはいっぱい入れ入れ!

星奈と一緒にモンハンがしたい!
星奈と一緒にギャルゲーがしたい!
星奈と一緒に寝たい!
そんな想いを秘めた本になりました…。

残念ながらも含めて、全星奈が可愛いです!
今日も元気にユニバース!!(◦ω◦)

富士見書房さんより、
ななせが挿絵を担当させていただきました
「ヘルカム!」(八奈川景晶さま著)が発売になりました!
もうお手に取っていただいた方、感想を下さった皆様、
本当にありがとうございました!!

まだの方も、もしよろしければチェックしてみて
下さいませー。(*'▽`*)
よろしくお願いいたします!

めるちーず 13
僕は星奈しか要らない 2

発行 生クリームびより
発行人 ななせ めるち

2011年 2月発行
印刷 コーシン出版さま

<http://nanamel.blog77.fc2.com/>

禁無断転載・禁無断複製

18歳未満の方の閲覧はご遠慮ください

免責
本書の内容に関し本書発行人は
いかなる保証もいたしません。

